

■2016参院選 マニフェスト（政権公約）のできばえチェック表 【2014衆院選との比較】

※点数は、「2016参院選の点数 ← 2014衆院選の点数」

基本項目	配点	項目	政党名																					
			自由民主党		民進党		公明党		日本共産党		おおさか維新の会		社会民主党		日本のことを大切にす る党		生活の党と山本太郎とな かまたち		新党改革					
			2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014	2016	2014				
①理念・ビジョ ン	10	点 数	4	4	3	—	6	4.5	4	4.5	2	—	4	3.5	2	—	3	—	—	—				
		コ メ ン ト	ありたい国の姿（理念・ビジョン・将来像）が示されているか		ありたい国の姿の根拠・着眼点が示されているか		国家としての課題が捉えられているか		憲法改正によってどのような国家を目指すのかは、最重要の争点の1つであるが、明示されておらず、争点化を避けているとしか受け取れない。		「経済と暮らし」と「憲法と平和」の2つを争点としたいことはわかるが、どのような国を目指したいのか、将来像が示されていない。		やや抽象的ではあるが、「希望が、ゆきわたる国へ。」という理念を掲げ、「家計」を重視していく方向性を明示している。		安倍政権の打倒というスローガンを強く打ち出し、野党共闘と日本共産党の躍進を掲げている点は明快。ただし、理念・国家ビジョンは前に出しにくい。		大阪の改革を国で実施することを打ち出しているのみで、明確な理念・ビジョンは見出しにくい。		現政権に対する対抗軸として、社会民主主義という立場を明示している点はいやが、ビジョンとしては描ききれていない。		日本人の心を大切に自主憲法の制定という方向性は明確に打ち出しており、「日本憲法草案」についても公表している。		「生活者本位の国へ」というスローガンが示されており、視点としてはわかるが、ビジョンとしてはやや抽象的。	
		点 数	6	5	5	—	6	6	6	6	3	—	6	4.5	3	—	3	—	—	—				
②政策の体系 性・一貫性・独 自性	10	コ メ ン ト	政策BANKにおいて、「経済再生」「女性活躍」「地方創生」「安全安心」「国の基本」の5つの柱をおおよそ体系立てて示されている。		11の「国民との約束」に沿ってまとめられている。重点政策に絞り込まれている分、比較的わかりやすいが、体系性としてはやや物足りない印象		6つの柱に沿って整理されている。それぞれの柱にサブタイトルがつけられ、その目指す方向性が表現されており、わかりやすい。		7つの柱に沿って整理されている。特に、経済政策については、さらに3つのチェンジと財源確保に分け、それぞれの観点で方向性が示されて		いくつかの争点について党の考え方や政策を示しているが、特段の体系化は行われていない。		6つのCHANGEに沿って整理されている。ボトムアップによる経済成長の道筋についても示されている。		党の9つの基本政策に沿って整理されており、整理の仕方としては一貫性がありわかりやすい。		3つの争点に絞り込んで整理されている。体系化というよりは重点化。							
		点 数	8	9	7	—	6	9	8	8.5	4	—	5	6	2	—	4	—	—	—				
		コ メ ン ト	経済政策については、「GDP600兆円」など威勢のよい目標が掲げられているが、その達成プロセスがみえてこない。また、その裏付けとなる財源確保・財政再建策が示されておらず、実現性が担保されていない印象		「次世代にツケを回さない」という柱の中で、財政再建策やエネルギー政策等がまとめられているが、財源確保の見通しは明確に示すべきではなかったか。バラマキの印象はぬくえない。		政策は比較的具体的にわかりやすく示されているが、財源確保・財政再建策については、額まで試算している点は評価できるが、実現が相当困難なものも含まれており、それ自体の実現性に対する評価は		「消費税にたよらない別の道」として、党としての財源確保案・財政再建策について、具体的な財源確保見込み額まで試算している点は評価できるが、実現が相当困難なものも含まれており、それ自体の実現性に対する評価は		改革に関しては、大阪での改革実績を根拠として示しているが、果たしてそれが国の改革として実施するときにはどれだけの根拠となり得るのかは不明。		現政権の問題点を示したうえで党の政策を示したり、景気回復のフロー図を載せたりしている。財源確保について、党としての考え方をまとめて整理している点は評価できるが、具体的な見通しまでは立		政策というよりも、抽象的な方向性にとどまるものが多い。		3つの争点で7つの政策に重点化。柱ごとに政策に関する解説文が掲載されているとともに、関連分野で党として議員立法した法案が掲載され、実効性の裏付けとしている。							
③政策の具体 性・実現可能性	20	点 数	3	5	5	—	6	6	4	5	3	—	3	3.5	2	—	3	—	—	—				
		コ メ ン ト	読み手に取ってわかりやすい工夫はされているか		マニフェストの配布・周知の工夫はされているか		策定過程において国民の提案を組み込むプロセスを有しているか		政策パンフレットは比較的にわかりやすいが、図表等はない。後半に政策の詳細が掲載されているが、文字が小さく字数が多いため読みにくい。		マニフェストそのものではないが、インフォグラフィックを活用した政策の解説動画を党のホームページで配信している。		ふりがな付きの「子ども・子育てマニフェスト」を公表しており、実際に子どもが見やすいかは別として、その姿勢は評価できる。		動画やグラフを活用しているが、ホームページの地の文で、テキストで提供されているのみで、みにくい。PDFも掲載するべき。		大きな文字でシンプルに表示しているが、資料は4ページのみ。ホームページで、3種類の写真が入れ替わるうちの1枚にリンクが貼ってあり、		グラフやフロー図が載せてあり、比較的にわかりやすい。ただし、ダイジェスト版が公表されたのが遅く、詳細版はさらに後日となり、後手に回って		ホームページの地の文のみ。「ニュース」の中に掲載されているだけで、「政策」からも「選挙情報」からもアクセスできない。タイトルもな		表紙を入れて全体で6ページのコンパクトなもの。7政策に絞り込まれているため、比較的にわかりやすい。ホームページのリンクの場所はややわかり	
		点 数	21	23	20	—	24	##	22	24	12	—	18	##	9	—	13	—	—	—				
計	50	点 数	42	46	40	—	48	51	44	48	24	—	36	35	18	—	26	—	—	—				
		コ メ ン ト	「新三本の矢」は、見出しとして小さく表示されているだけで打ち出しが弱く、自信のなさが表れている。「アベノミクスのエンジンをフル稼働する」といったかけ声は踊るが、経済成長にどのようにつながるのか、具体的なプロセスがみえてこない。消費税率10%への引き上げ時期は明示しているが、財政基盤を確立するための具体策は示されておらず、財政再建の道筋は立っていない。抽象的なスローガンと個別具体の施策集の合冊という印象であり、政		アベノミクスの問題点は、グラフィックなども使ってわかりやすく示されている。しかし、それに対して何をどう変えていこうとしているのか、がわかりにくい。結局、自民党の政策（スローガン）とあまり変わらないものもみられる。国家としての将来像が明確に提示されていないため、場当たり的な対策の提示にとどまる印象になってしまっていると考えられる。財源確保策や財政再建策を具体的に提示しなければ、国民の信頼を得ることは難しいのではない		理念と体系と具体性があり、比較的にわかりやすいマニフェストといえる。ただし、財源確保策・財政再建策については、まったく触れられておらず、政策の実現性が担保されないとともに、国の将来に対して不安を抱かざるを得ない。さらには、憲法改正について触れられていなかったり、原発政策について自民党の政策と齟齬があったりするなど、連立政権と党のマニフェストとして、どのように受け取ればよいかかわからない点があるのは、大きな問題といえ		争点としているものについては、よく掘り下げられており、党としての問題意識と、政策の方向性はわかりやすい。ただし、現政権に対する反対姿勢は明確であるが、反対の先でどのようなプロセスによって政策転換を図るのか、その実効性が問われる。野党共闘を掲げているが、政策的な連携をどのように図るのか、財源確保案を具体的な試算とともに提示しているが、どれだけ実現可能性があるのか、それらを読み込んでいく必要がある。また、読み手を意識した		実質3ページのマニフェストであり、スローガンと大まかな政策の方向性を示したものととどまっている。「自公」と「民共」との違いを一覧表にまとめたものはわかりやすいが、全体として党が目指す理念・ビジョンがみえてこない。大阪並みの改革を国でも実施する、というロジックは、国政のマニフェストとしてどれだけ妥当性・訴求力があるのか、疑問も残る。		現政権に対する対抗軸は明確に示されている。ただし、社会民主主義の考え方によってどのような国家・社会を実現しようとするのか、の描き方が弱く、まずは反対、という姿勢ばかりが前面に出ている印象がある。大きな政策転換を提示していることから、財源確保の見込みについては、さらに具体的に踏み込む必要があるのではないか。また、マニフェストの公開の遅れはマイナスポイントである。		「政策実例」というネーミング自体が、マニフェスト・選挙公約といえるのか、判断としない。党のホームページでも、「ニュース」のログをたどってやっとたどり着けるもので、党として重視している点にはみえない。党の基本政策に沿って体系化している点は、一貫性がありわかりやすいが、政策の内容は抽象的であまり具体的なものにどまっ		3つの争点、7つの政策に絞り込んだマニフェストであり、わかりやすい。野党のマニフェストとしては、このような絞り込みもありか。野党としての政策提言の実効性の根拠として、関連分野の議員提案の実績を掲載しているところはおもしろい工夫である。ただし、政策は全般的に抽象的で、実行プロセスなども明確でない場合が多い。							
		点 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

採点： 10点・・・条件を満たしている
0点・・・条件を満たしていない

▽条件を満たす割合に応じて配点
(例) 条件の8割程度満たしている：8点
条件の3割程度満たしている：3点 等

※「③政策の具体性・実現可能性」は2倍の配点